

嘉芸っ子



学校だより 1月

嘉芸小学校 令和2年 1. 10

【学校教育目標】

未来に生きてはたらく力を身につけ、自分の将来に夢を持つ子
○進んで学ぶ子（知育）
○心豊かな子（徳育）
○たくましい子（体育）

1月の生活目標

◎物や金銭を大切にしよう
○外で元気よく遊ぼう

目標をもって 3学期のスタート

新年を迎え、ご家族で楽しいお正月を過ごされたことと思います。保護者の皆さま、地域の皆さま、旧年中は、本校の教育活動にご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

始業式の校長あいさつでは、自分の目標を立てることや「当たり前なことを当たり前に行える」毎日の小さな積み重ねが目標の達成には大事であることをお話ししました。このあと子どもたちはそれぞれの教室に戻り、気持ちも新たに新年の目標や3学期のめあてを立てている姿が見られました。

子どもたちの健やかな成長のために、今年も職員一同力を合わせ「未来に生きてはたらく力を身につけ、自分の将来に夢を持つ子」の育成に努めていきます。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

児童会代表あいさつでは松本大輝さんが力強く発表



今月の予定

- 6日（月）三学期始業式
- 8日（水）PTA評議委員会
- 10日（金）生活朝会
ふるさとの歌（かりーさびら）
- 16日（木）校内持久走大会（2・3校時）
- 23日（木）雪遊び（予定）
- 22日（水）十八番大会
- 24日（金）音読朝会 英検
- 25日（土）地区PTA研究大会
- 27日（月）保護者による読聞かせ

かりーさびら ふるさとの歌 1.10

恒例となりました年明けの「かりーさびら」が10日（金）に開かれました。

嘉芸っ子の皆が元気いっぱい、仲良く、楽しく過ごせるようにと、三線や踊りで「かりー」をつけていただきました。三線でのかりーは学校内の安全祈願で、歌・太鼓・踊りの賑やかさはマジムンの厄払い。かぎやで風の幕開けで始まった舞踊も最後は全員でカチャシーを踊り大いに盛り上がりました。

【出演者の方々】

「ふるさとの歌」担当の喜納彩華先生
彩華先生の琉舞仲間



最優秀賞を受賞した作文（散文）を学校だよりで紹介しします。【全琉図画・作文・書道コンクール】

教育委員会表彰 受賞

本校児童の伊藝結麻さんが「児童活躍」の功績が認められ、金武町教育長より教育委員会表彰を受賞しました。

【功績】全琉図画・作文・書道コンクール

作文の部（散文）において、2万点余の応募中から見事最優秀賞に輝きました。（沖縄タイムス社主催）



伊藝家の大会議

四年 伊藝 結麻

「ねえ、もうこの筆箱、捨てたら？」

「え、だめえて。なんでよー。」

母は、ピンクの筆箱を捨てたらというが、私はいやだと反対する。

（なんで、捨てないといけないわけ？いつも「ものは大切にしないさい。」っていつてるのに。）

これをきっかけに、伊藝家の大会議がはじまりました。

まず、なで捨てるのが議題にありました。すると母が、

「ものを捨てないでいると、ものがいっぱいふえてしまって、大変なことになってしまいうでしょ。ごみだらけになってしまいうじゃないの。」

「そうだけどさあ。じゃあ、ものを捨てるタイミングはいつ？」

みんな少し考えてから、

「いらなくなったから」「こわれたから」「使い終わったから」「あきたから」「新しいものをかってもらったから」「サイズが合わなくなったから」などの意見が出ました。

「でも、この中には、正しいと悪いがあるね。」

『新しいものを買ってもらったから』はだめね。だってまだ使えるでしょ

「じゃあ、家にある古くなったコップは？まだ使えるよ。」

「うーん・・・、それはコップが悲しいと思わなかったらいいんじゃない？」いままで使ってくれてありがとうって思ってるって思ったらね。」

「なるほど」

「あつ、逆の立場、ものの立場になって、うれしいと感じたら捨ててよくて、悲しいと感じたらダメなんだよ。」

「確かに、そうかもしれない。」

「じゃあ、こわれたおもちゃはどう思うかなあ。」

「今まで遊んでくれてありがとうっていうね。」いやいや、乱暴に扱ってひどいよっていうかもしれない。」

「それって、大切に使用したかどうかってことじゃない？ものを大切にするためには、ものの立場になって考えることが必要なんだよ。」

「母さんが父さんからももらったサイフは、きつとありがとうって思ってるけど、捨てるらないなあ。」

「それって私のピンクの筆箱と同じ！小学校の思い出がたくさんつまっているから、捨てるらないよ。」

「うーん、でも、ものを捨てないでいると、ものがいっぱいふえてしまいうって、ごみだらけになってしまいうじゃないの。」

（・・・また、はじめにもどってしまった。）

ものを大切にすることは、物の立場になって考えること。ものが使えなくなったとき、「私を大切にしてくれてありがとう」って思ってくれたらいいな。でも、大切な思いがたまってたら捨てられない。ただ、そればかりになると家の中がごみだらけになってしまいう。

そんな話をしていると、またいろいろと想像がふくらんできました。もしかすると、ごみだらけの中にいる人って思い出に囲まれて幸せなのかもしれない。物の思い、自分の思い、だれかの思い。でも、それも全てが自分が感じる思

い。正しい思いを感じるには、自分の心をきれいに保つことが必要なかも。そのためには、思いやりの心が大切なのではと私は思いました。

伊藝家の大会議では、結論は出ませんでした。でも少しスッキリした気持ちになりました。ピンクの筆箱は、結局捨てることにしたけど、その前に「三年間ありがとう」って書いて記念写真をとってもらいました。小学校一年生から三年間の思い出と共に、ピンクの筆箱も私の大切な思い出となっています。